

静岡図書館友の会 報 告

第19号:2018年4月

(目次)	
・教養と人と図書館と	P 1
・2017 事業報告、2018 事業計画	P 2
・2018 年度総会・記念講演会報告	P 3
・つなぐ 楽しむ 分かち合う	P 4
・図書館につづく道	P 5
・図書館からこんにちは	
・市内図書館ニュース	P 6
・リレーエッセイ・「ほっとコーナー」	P 7
・これからの事業日程	P 8

教養と人と図書館と

前静岡県立中央図書館長 河原崎 全



縁あって再び当館勤務となり3年が経ちます。教員の私が図書館で定年退職を迎えるとは思っていませんでしたが、これも一つの道であり、大袈裟に言えば、宿命だったかなと思っています。この間、「しずとも」の皆様には、抜群の行動力と細やかな心遣いによって多くの場面で支えられてきました。図書館交流会などの開催、新たな県立図書館を望む会の設立や要望書の提出、多くの貴重な情報も頂戴しました。心から感謝申し上げます。

さて、「1日の読書時間ゼロ」の大学生が半数以上、5年間で18.6ポイントの増加という全国大学生協連の調査結果が新聞等で話題になっています。原因については、スマホ普及の影響より子どもの頃の読書習慣の欠如が指摘されていました。別の調査では、小学生から高校生まで年齢層が高くなるほど読書時間が減少し、ここ数年間で全く読書しない者の割合が高くなる傾向が続いているとも言われています。文科省は子ども読書活動推進第三次基本計画において、小・中・高校生の不読率の減少対策をあげていますが、私には、大学の理系偏重・文系軽視、一般教養よりも専門的知識が大切にされる昨今の国の姿勢とも無関係には思えません。作家で数学者の藤原正彦氏は、「教養なき世代」が国のリーダー層の中心

になりつつあることを憂え、小学生には先ず国語力をつけることを重視し、教養を育むことと感受性の涵養のために読書を強く勧めています(文藝春秋2018.3)。

こうした若者の読書離れに歯止めをかけるためにも、読書や活字文化を支える存在として、出版社、新聞社、書店、そして図書館がさらに注目されなくてはと思います。

図書館について言えば、当館だけでなく市町立図書館の状況からも、職員の存在が極めて重要であると実感しています。利用者と本、利用者図書館、また利用者同士をつないでいるのは職員です。日々の様々な場面は小さくても、それらを紡いでいくと大きな成果になるでしょう。学校図書館も含めて、図書館がその使命を果たすことができるかの成否は専門職員の育成にかかっていると思います。

教養とそこに関わる職員(人)の存在、経済優先・効率重視の裏側の大きな括りの中では強く繋がっています。子どもたちや若者が本に親しみ、生きていることを楽しみ、文化を継続していくためにこの二つが大切にされるべきと思っています。

※ しずとも：「静岡図書館友の会」の愛称

2017 年度 事業 報告

- 1 全体 2017 年 12 月末現在 会員数 220 人
 - (1) 第 9 回総会と講演会 2 月 26 日 もくせい会館
講演 高橋源一郎氏 (演題『だいたいいいんじゃない?』) 193 人参加
 - (2) 第 21 回静岡県図書館交流会 (実行委員会と共催) 5 月 22 日 静岡県立中央図書館
「いま改めてこれからの県立図書館を考えよう」 63 人参加
 - (3) 交流会で採択の「アピール文」、「県民からの要望」を県教育長、県議会議員ほかに提出。 6 月 5 日
 - (4) 県知事選候補者へ「公開質問状」「静岡県立図書館の新建設についてのアピール文と要望」等の資料を添えて送付。 回答を当会ホームページで公開。 6 月 6 日
 - (5) 新たな静岡県立図書館を望む活動
 - ・「新たな静岡県立図書館を望む会」を立ち上げる。 7 月 27 日
 - ・「要望書」を県知事、県議会議長に提出。 9 月 20 日
 - ・県教育委員会主催意見交換会 : 東部、中部西部開催にそれぞれ出席。
- 2 学ぶ活動
 - (1) 図書館セミナー 6 月 17 日 静岡労政会館 5 階
講演会 山崎佳代子氏 (演題『食物、女、戦争セルビアから時代を読む』) 95 人参加
 - (2) 「図書館を知る」シリーズ 「図書館見学マニュアル都道府県立図書館編」 発行 10 月 10 日
「県立図書館ことはじめ」 発行 11 月 1 日
- 3 広める活動
 - (1) 会報第 17 号 (4 月) 第 18 号 (9 月) 発行 (2) ホームページ・リニューアル 5 月
- 4 支える活動
 - (1) 図書館充実支援のための働きかけ
 - ・静岡市図書館協議会委員他関係者への資料提供。図書館協議会・県議会・市議会傍聴
 - ・「静岡市立図書館の職員についての要望書」を教育長に提出。 1 月 10 日
 - (2) 市教育長室にて「しずとも基金」より 2016 年度市立図書館への寄贈図書 (438, 638 円) の贈呈式を行う。教育長他 6 名出席のもと当会より目録を渡し感謝状を頂く。 3 月 16 日
 - (3) 静岡市立図書館へ書籍寄贈、雑誌スポンサーに協力、静岡市立中央図書館内照明寄贈、「図書館宣言」「静岡市立図書館の使命と方針」のポスターパネル寄贈・・・(568, 742 円)
 - (4) 市立中央図書館主催のしずとしょフェスタ「図書館を 5 倍たのしむ日曜日～手をつなぐ図書館サポーターたち～」に協力参加 延べ 398 人参加 10 月 29 日
 - (5) 「図書館友の会全国連絡会」等全国組織と県内図書館友の会との連携
 - (6) ブックリサイクル、古本市への協力

2018 年度 事業 計画

- 1 全体
 - (1) 総会・講演会 3 月 4 日実施済 (2) 第 22 回静岡県図書館交流会共催 6 月予定
- 2 学ぶ活動
 - (1) 「新しい図書館ができるまで～施設計画の視点から～」
建築家の寺田芳朗氏講演会を「新たな静岡県立図書館を望む会」と共催。
静岡県立中央図書館 70 名参加 2 月 4 日実施済
 - (2) 図書館セミナー 静岡市立中央図書館と共催予定
 - (3) 公共施設再編計画と図書館についての勉強会
- 3 広める活動
 - (1) 会報の発行 年 2 回 (2) ホームページの更新
- 4 支える活動
 - (1) 図書館充実支援のための働きかけ (2) 静岡市立図書館への図書等の寄贈
 - (3) 市立図書館と「しずとしょフェスタ」等の協力 (4) 会員の活動への支援・協力
 - (5) 「新たな静岡県立図書館を望む会」等、他の図書館関連団体との協力
 - (6) 文化活動への協力 (7) 市民団体活動への協力・支援・後援
 - (8) 古本市への協力

静岡図書館友の会 2018年度(第10回)総会・記念講演会

総 会

静岡図書館友の会・運営委員 山下 多津美

- 日 時：2018.3.4(日) 13:30~16:00
- 会 場：静岡県総合研修所もくせい会館 1階富士ホール
- 参加者：45名

今年の総会は3月4日(日)に会員45名の参加の下に開催されました。

冒頭に静岡市立中央図書館長・堀川仁様から心のこもった挨拶をいただき、その後議案は下記の1号から5号まで承認され、滞りなく終了しました。



(総会風景)

この総会及び下記の記念講演会の様子については、当会のホームページに掲載してありますのでご覧いただければ幸いです。

(静岡図書館友の会ホームページ)

<http://shizutomo.sakura.ne.jp/>

- ・第1号議案 2017年度事業報告
- ・第2号議案 2017年度会計及びしずとも基金決算報告
- ・第3号議案 2017年度会計監査報告
- ・第4号議案 2018年度事業計画
- ・第5号議案 2018年度予算

記念講演会

仲本 由加

- 日 時：2018.3.4(日) 14:30—16:00
- 講 師：鈴木 重子氏
- 演 題：「言葉、声、身体を開く」
～身体性のある言葉を伝える、声～
- 参加者：162名



(講演風景)

講演会は鈴木重子氏が歌う『What a Wonderful World』で始まった。鈴木氏はプロのヴォーカリストで、言葉を音にして伝えることを大切に考えている。講演では言葉を伝えるための声の大切さを中心にお話しされた。詳しい内容は次のとおり。

人の話を聞くと、言葉の意味がよく伝わる声、その反対の声がある。その違いはどこにあるのか。

鈴木氏は以前、コンサート前にぎっくり腰を患った。このとき演奏会場への送迎を引き受けてくれたピアニストから「身体の動かし方が悪いのでは」と指摘を受け、アレキサンダー・テクニックを紹介された。これは身体の無駄な緊張を解消し、効率良く動く身体をつくるレッスンのこと。レッスンを受け鈴木氏は、身体のあちこちに負担をかけて歌っていたことに気づいた。身体から声、音を出す際、最も

響く部分は骨だが、骨周りの筋肉が固まると音はよく響かない。レッスンを続けるうち、次第に声が出しやすくなり、歌うときの感情を音にして伝えることが可能になり、鈴木氏の歌を聴いて観客が泣くということも初めて体験した。

参加者は、鈴木氏の教示によりアレキサンダー・テクニックを体験した。初めに普通の状態ですべてを出した後、身体の緊張をほぐすやり方を実践し、また声を出して効果を確認した。最後に「ふるさと」を参加者全員で歌った。歌う前に鈴木氏は、目の前にふるさとがあると想像して歌うように仰った。伝えたいことを具体的に想像して声に出すことも大事なポイントのようだった。普段何気なく言葉を発している身としては、とても興味深い講演だった。

つなぐ 楽しむ 分かち合う

静岡県読み聞かせネットワーク会長 勝山 高

本会は、静岡県教育委員会のネットワーク構築中央会議の答申を受け、民間有志の団体として平成14年に設立され、17年目の春を迎えました。現在、県内で子どもと本を結ぶ活動をされているボランティアの方々を中心に図書館職員など、団体個人合わせて90名の皆さんが会員となっています。

活動として、静岡県立中央図書館の文化の丘フェスタに合わせた講演会や各地の児童図書館めぐり、会報の発行などを行っています。これまでの講演会では藪内竜太氏、赤羽茂乃氏、翻訳家の伏見操氏などの方々をお招きし、29年度は児童文学者の小宮由氏と渡辺鉄太氏のお話を伺いました。



渡辺鉄太氏（左）、小宮由氏（右）

見学ツアーは、一昨年の藪内正幸美術館と八ヶ岳小さな美術館めぐりに続いて、昨年9月には国際子ども図書館への見学・参観ツアーを実施しました。これらの活動は、本会の活動理念である「つなぐ 楽しむ 分かち合う」に基づいたものであり、子どもと本をつなぎ、会員相互のつながりの中で子どもとともに楽しみ、その幸せをともに分かち合う一助として行っています。

子どもと本を結ぶ活動は、多くの方が実践されており、その手段方法は様々ですが、いずれも子どもと本の幸せな出会いを願うという共通した思いがあると思います。

年間に発行される4,000冊あまりの児童書の中から、目の前の子どもに勧めたい作品を見つけ出すことは至難の業であり、選書は永遠の課題と言えるでしょう。

大人は、どうしても新刊本に目を向けがちですが、

我々が慣れ親しんだ作品でも、初めて目にする子どもには新鮮な一冊であり、まずは時の試練を経て長く子どもたちに読み継がれてきた作品に重きを置きたいと思います。しかしながら、すぐれた作品でも絶版本であることが間々あり残念に思いますが、このような時に頼りになるのが図書館ではないでしょうか。

素晴らしい作品であっても、書庫に保管されたままでは子どもたちは知る由もありません。それらの作品を子どもたちに紹介するなかで、子どもと図書館をつなぐ。やがて利用者として図書館を訪れた時、子どもたちは図書館に未来と希望の玉手箱があることを実感することでしょう。

ジョーン・エイキンの「子どもが子ども時代に読むのはたかだか六百冊なのです。しかも、その六百冊というのは、もうすべてこれまでに書かれてしまっているのです。」という言葉を変えて考えてみたいと思います。



国際子ども図書館



小宮由氏（左）、渡辺鉄太氏（右）

『図書館につづく道』 発刊に寄せて

児童文学者協会会員・静岡図書館友の会運営委員 草谷 桂子

図書館には、老若男女、立場も考え方も違う不特定多数の人たちが、さながら「駅」のように行きかっています。

書棚の前で本を探している隣の人は、当人は知らないだけで、実は身内の友人かもしれません。

図書館に来るまでも、人それぞれの「物語」があり、意外なところでつながりあっているのではないのでしょうか。

図書館は、本だけでなく人をもつないでいます。それも、現在だけでなく、過去の知らない人、さらには、未来の人までも……。

そんな図書館の魅力や役割を童話で著したいと、長い間思い続け、書き続けてきたら、いつのまにか10編のお話が出来ていました。

福島から避難してきた子、友だちと仲たがひした子、発達障害の弟の世話をする子、祖母との関係がぎくしゃくしている子など。悩みも、取り巻く大人たちの事情もそれぞれ違います。

そんな彼ら彼女らに「星とお茶」が売りの、架空の小さな山里の町に住んでもらったら？

想像の世界だった登場人物たちは、次第に現実味を帯びて、自由に話し始め動き始めてくれました。そこに「図書館」があり、本と人を介する職員がいたからでした。

普段から自分のテーマである「人との距離感」「自立」「孤独との向き合い方」「老い方」「多様性」「許容」なども各章の隠しテーマにして、私自身が、登場人物と一緒に迷ったり考えたりしながら物語を組み立てました。

発刊後、多くの感想が寄せられています。「裏表紙の町のマップを見て、どこに住みたい

か楽しく迷った」「登場人物の〇〇さんと会って話したい」「わたしの心の中を見抜かれた」等と、ご自分の人生と本中の人物を重ね合わせたり、図書館・本・人との出会いを思い出したり、感謝したものが多いのには驚きました。

当然ですが、現実のどんな子にも、どんな大人にも、「その人だけの物語」があるのだと思いました。

昨今の財政難と行革の時代、全国至るところで「図書館の危機」が言われています。そんな中でも、本と人を結ぶプロの仕事に頑張ってくれている図書館職員と、それを支えている市民を思い浮かべ、感謝とエールを込めて綴った物語です。

『図書館につづく道』を上梓したことから、さらに遠くに続く道が見えてきた気がしています。「図書館」や「本」を友だちにして歩く道。草花を愛で、鳥や虫の声にも耳を傾け、周りの景色を楽しみながら、ゆっくり歩き続けようと思います。



『図書館につづく道』/子どもの未来社
挿絵：石井勉

図書館から こんにちは

「ビジネス支援図書館に勤務して」

御幸町図書館主査 永田雄亮

御幸町図書館に勤務して一年が過ぎようとしています。

当館は、平成 16 年の開館に向けた構想の段階から「ビジネス支援」を前面に打ち出してきました。当館で利用できるデータベース等を使いながら、お客様から寄せられる法律や起業関係などの調べもの・情報検索のご依頼に対応することが、特に重要な仕事となっています。

静岡市の“まちなか”に位置している特性上、仕事帰りの方や買い物ついでに立ち寄りの方が多く、賑やかさと慌ただしさが感じられる職場です。そのため、カウンターに入る時は、「いつ・どのような問合せがあるか」、「目的を持って来館されるお客様のご希望に応えることができるか」などと考えながら、いつも緊張感を持っています。

そんな中、職場から「検索技術者検定」を受験する機会を与えられました。検索技術者は“サーチャー”と呼ばれることもあり、本検定は、数多

ある情報源の中から適切な情報を選択し、活用することのできる「情報の専門家」を育成することを目的としたものです。まさに当館職員として必要とされる技能ですが、図書館サービス業務を初めて経験する私には、用語を理解する段階から戸惑いました。それでも、同僚と共に受験することで励みになり、無事、全員合格することができました。

もちろん、知識だけではカウンター業務は務まりません。むしろ、机上で学んだはずの内容が、お客様に対面したときに咄嗟に出てこない、といったことが多く、経験不足を日々痛感しています。今後、検定を通じて得られた成果を日頃の業務に還元しながら、自らの経験値を少しずつ上げていくことが次の目標です。

最後に、当館は、ビジネス支援以外に「多言語サービス」や「医と健康」に関する資料等の充実にも力を入れています。ぜひ、ご利用ください。

市内図書館ニュース

「南部図書館開館25周年記念イベントについて」

静岡市立南部図書館主任主事 澤田隼一

南部図書館は、平成 29 年 7 月 21 日に開館 25 周年を迎えました。節目の年を迎えるにあたり、南部図書館では 1 年を通してさまざまな記念イベントを実施しました。

7 月に、同じくクラブ創設 25 周年を迎えた清水エスパルスのマスコットキャラクター「パルちゃん」が 1 日図書館長に就任し、一緒に読み聞かせを聞いたり、カウンターで本の貸出作業をしたりしました。

10 月には、静岡市立図書館初となる婚活イベント『本 de 恋活 in 南部ライブラリー』を開催しました。新着本装備などの体験作業や、閉館後の館内探検といった図書館ならではの体験を通して新たな人や本

との出会いを楽しみました。男女合わせて 24 名が参加し、3 組のカップルが誕生しました。

その他にもふじのくに地球環境史ミュージアムと静岡地方気象台から講師をお招きして実施した子ども向け講座、ふじのくに地球環境史ミュージアムの昆虫標本や解説パネルによるミニ博物館展示、中央図書館以外では初開催となった「ぬいぐるみの図書館おとまり会」なども開催しました。

今後も皆様に楽しんでいただけるイベントを企画していきたいと思っていますので、ぜひこんなことやったら面白そうといったご意見をお待ちしております。

声のちからと絵本のちからを融合させて……

ヴォイス・セラピー実践研究家／絵本専門士 上藤 美紀代

昨年5月、人生の集大成になるかと「絵本専門士」（国立青少年教育振興機構認定）の資格を取りました。認定に繋がった10年以上にわたるボランティア活動から1つのエピソードを。

数年前、知り合いの医師からお声掛けいただき、聖隷三方原病院ホスピス病棟で「朗読&傾聴」のボランティアを努めました。礼拝堂での読み語りが一段落すると個々のお部屋へ。ベッドサイドで、患者さんのリクエストにお応えするような形で、あるいはインスピレーションで!? 絵本を選び、安らかなよい時間になるように願いを込め、読み語ります。すると、皆さん決まってご自分の人生を振り返り始めるのです。そして「なかなかよい人生だった。自分らしい生き方をしてきたと思う」と笑顔を見せてくださいます。初対面にも拘わらず、しかも1冊の絵本を読んだだけで……。

ご家族が胸の内を吐露してくださるお部屋もあります。人生をともに歩むことができどれほ

ど幸せだったか、感謝しているか、そんな尊い思いを私に語ってくださいます。患者さんは「ああ、この人こんなふうに私を大切に思ってくれていたのか」と微笑みを浮かべ、ご家族は「言いたくてもなかなか言えなかったことがやっと言えた」と安堵し、お部屋は優しく穏やかな空気に包まれます。天からは柔らかな光が降り注ぎ、何とも夢を見ているようなシーンに身を置くことになります。

初めてお会いしたご家族と、こんなに厳かな、こんなに温かく有難い時間を過ごさせていただいてよいのかと、いつも感謝の気持ちで胸がいっぱいになっていました。人に心を開かせ、人と人とを瞬時に結びつけてしまう絵本のもつ力の素晴らしさに感じ入り、これがボランティア活動の原点となりました。愛を運び世に平和をもたらす「絵本専門士」のお役目を、微力ながらも果たす努力をして参ります。



～ しずとも「ほっとコーナー」～

ならんで、ならんで、何を見た？

静岡図書館友の会代表 田中 文雄

この3月、妻と上野に行きました。桜はまだですが、さすが上野という人出。まずはパンダのシャンシャンを見に、上野動物園へ。入口近くには「16時10分の回、あと少し」の表示、慌てて、窓口に。そこには「今日は終了しました」のプレートが。

がっかりしましたが、65歳以上は入園料600円が300円になるとわかり、上野動物園はじめてと言う妻の希望で入園。すると目の前に「16時10分の回、あと少し」のプラカード。妻が思わず駆け出すと、職員が「危ないですから走らないでください」。一緒に走っていたおばさんと笑いながら「走っちゃうわよね」と走り、

無事「パンダの整理券」を手に入れる。

16時10分まであと4時間、まずは動物園内を半周し、一旦動物園を出て、不忍池を経て、池之端の旧森鷗外邸の水月ホテルで「舞姫御膳」を食べ、動物園外周の北半分を右回りに東京国立博物館へ。30分ならんで「仁和寺展」に入り、大阪、葛井（ふじい）寺の国宝千手観音像（天平時代・1,041本の御手を持つ）を360°ぐるり拝観。時間は15時45分。急いで動物園に戻り、10分ならび、シャンシャンの後ろ姿と30秒間の「ご対面」。

パンダと観音さま、のんびり、上野の春の半日でした。

これからの事業日程

～ 2018年度も魅力的な行事を企画しています。その中から3点に絞ってご案内します ～

■ 【静岡県立図書館の新館建設関連】

静岡県立図書館の新館建設につきましては、静岡図書館友の会を含む5団体が発起人となり「新たな静岡県立図書館を望む会」を結成し、184の県内団体の賛同をいただき、去年9月に知事、県議会あてに要望書を提出しました。完成まで関心を持ち続けたいと思います。

まずは2月4日に「新しい図書館ができるまで～施設計画の視点から～」建築家の寺田芳朗氏講演会をしましたが、行政の皆様も多数ご参加くださり、70名余の熱気の中での会となりました。

また、5月20日（日）午後の県立図書館のトップランナー鳥取県の元教育長の中永廣樹氏の講演会など、今後も他団体と協力しながら、勉強会、講演会などを計画する予定です。その都度お知らせしますので、大勢の皆様のご参加をお待ちしています。

■ 【図書館セミナー】

8月19日（日） 講演会 シンポジウム、ワークショップ、原画展開催

会場：静岡市立中央図書館

絵本『教室はまちがうところだ』（蒔田晋治文・長谷川知子絵、2004年子どもの未来社発行）は、発刊以来多くの学校で朗読され、新入学の子どもたちを中心に多くの読者に読み継がれています。韓国、中国でも出版され、海外の子どもたちにも愛されている絵本です。

この本の著者の蒔田晋治先生が、実は静岡市出身の教員だったということをご存知でしょうか？ 今年は蒔田先生の没後10年。この期に蒔田先生の関係者の皆さんにお話を伺い、業績を改めて顕彰したいと思います。出版社のご協力も得て、挿絵を描かれた長谷川知子さんの講演会・ワークショップも開催したいと思います。

画家の長谷川知子さんは『1年1組シリーズ』（ポプラ社刊）をはじめ、多くの子ども向け読み物や絵本で活躍され、パワフルに描かれる絵は多くの読者を魅了しています。また、講演会前後の期間に長谷川知子さんの原画展も企画します。静岡市立中央図書館と共催予定。

大人も子どもも一緒に、楽しい夏休みの1日にしたいと思います。お楽しみに！

■ 【「アセットマネジメント：公共施設再編計画」について】

最近、「アセットマネジメント」という言葉をよく聞きます。公共施設再編計画という意味だそうです。わたしたちも、この言葉の意味と、静岡市の図書館との関係について知っておきたいですね。まだ未定ですが、この勉強会も、実現出来たらと思っています。

静岡図書館友の会会報 No.19 2018.4

静岡図書館友の会 代表 田中 文雄

連絡先：（総務携帯）080-6910-9434

Eメールアドレス：sizutomo2008@yahoo.co.jp

ホームページアドレス：http://shizutomo.sakura.ne.jp/

（会員数）220人：2017年12月現在

（表紙イラストデザイン：J.T）

編集後記

- ・時は春。風の贈り物の野草の摘み菜も食卓に並びます。ポタジェの庭をめざして10年。先人の豊かな知恵には驚くばかりです♪。（J.T）
- ・富士山撮影に魅せられて丸3年、見知らぬ人との出会いを楽しみ、季節の移ろいを肌で実感。季節は青春、我が人生は玄冬の頃。（T.Y）